

わが家の石白で高さもあり非常につきやすいのですが、重い：

2019年

月刊 石屋さんのニュースレター ありがとう新聞 12号



お墓職人 たつよし
亀山龍厳

立山町で「たくさん雪が降った」と思っているも、富山市に行くとき全く雪がないってことがあります。
大きな川や道路を境に雪の量が激変するのが不思議です。

もち お餅つき



「よいしょ！よいしょ！」
降りしきる雨の冷たさを吹き飛ばすかのよう
に、園児のかけ声が響きます。
子供が通っている幼稚園では、毎年12月のはじめに餅つきを行います。
妻が役員をやっていることもあって、今年はその手伝いに行くことになりました。

私は園児が餅をつくのサポートしました。
子供たちははりきって杵を振り上げようとしてますが、慣れない動作にふらふらです。それでもなんとか餅をつくと満面の笑顔を見せてくれます。

でも一番はりきっていたのはおじいちゃんたちでした。

「今の若いもんは餅つきしたことないやろ」と気合の入りが違います。実際、そんなおじいちゃんたちの手際は見事なものでした。



「昔取った杵柄」という言葉があるように、若い時に身につけた餅をつく技量や感覚は、いくら年を重ねても衰えることはないようです。

その様子を園児たちも真剣な眼差しで見えています。

このような行事を通して、言葉では伝えきれない「技術」や「思い」が受け継がれてきたのでしよう。

「今年もお家で餅つきしたいな」

家に帰った子供が言いだしました。

今年も父が遺してくれた石白が活躍しそうですね。